

2026  
令和8年度

みえ防災塾  
履修要綱

さきもり応用コース

**midimic**  
mie disaster mitigation center

三重県・三重大学  
みえ防災・減災センター

防災  
人

# 目 次

1. 履修方法 .....	2
1.1 カリキュラムの構成	
1.2 科目の基準	
1.3 成績評価	
1.4 成績評価に対する照会と申立手続きについて	
1.5 修了要件（必要科目数）	
2. 受講に係る留意事項 .....	5
2.1 テキスト代等その他の費用	
2.2 休講及び教室変更	
2.3 補講の方法	
2.4 呼び出し等	
2.5 授業時の注意	
2.6 受講の停止	
2.7 損害賠償	
2.8 附属施設の利用	
2.9 通学方法	
2.10 休日等の校舎への立ち入り	
2.11 その他	
3. 教育課程表 .....	7
4. 教授要目 .....	9
みえ防災塾の津波警報発表時の避難方法について .....	16
三重大学構内図・アクセス .....	17

本履修要綱は、三重県・三重大学 みえ防災・減災センター（以下、センターと表記）の事業として実施するみえ防災塾の「さきもり応用コース」の履修に必要な事項を示したものであり、主な内容は履修方法、受講に係る留意事項、教育課程表、教授要目です。

この履修要綱の内容をよく読んで理解するとともに、必要となった時は、これを参照して、履修に際して誤りのないように注意してください。

## 1. 履修方法

---

### 1.1 カリキュラムの構成

センターの事業として実施するみえ防災塾「さきもり応用コース」のカリキュラムは、5つの科目と1つの集中セミナーから構成されています。また、定められた修了要件（必要取得科目数）に従って履修する必要があります。修了するためには、3章の表1（7ページ）に示す教育課程表の中から、定められた必要科目を履修する必要があります。

図1（3ページ）にカリキュラムの全体構成を示します。

図2（3ページ）に入塾から修了までに必要となる履修方法等の流れを示します。

「さきもり応用コース」を修了すると、修了証書、「三重のさきもり」認定証、学校教育法第105条に基づく履修証明書を交付します。（大学院生には「三重のさきもり」認定証を交付します）

### 1.2 科目の基準

特論科目（科目名に“特論”と明示されている科目）	15時間で1科目
演習科目（科目名に“演習”と明示されている科目）	30時間で1科目
実習科目（科目名に“特別研究”と明示されている科目）	90時間で1科目

### 1.3 成績評価

履修した授業科目の成績は、AA・A・B・C・Dの評語で評価され、AA・A・B・Cを合格とします。

### 1.4 成績評価に対する照会と申立手続きについて

各科目の成績評価について疑問が生じた場合は、照会する事ができます。詳細については、三重大大学のホームページに記載してあります。

具体的な手続きについては、センター又は学務部教務チームに問い合わせてください。  
(学務部教務チーム 3番窓口 総合研究棟II 1階 TEL059-231-9712)

### 1.5 修了要件（必要科目数）

「さきもり応用コース」を修了するためには、1年以上在学し、指定の5科目の履修（さきもり特別研究による研究成果報告書の提出を含む）と集中セミナーを受講して、修了判定を受けなければなりません。



図1 カリキュラムの全体構成

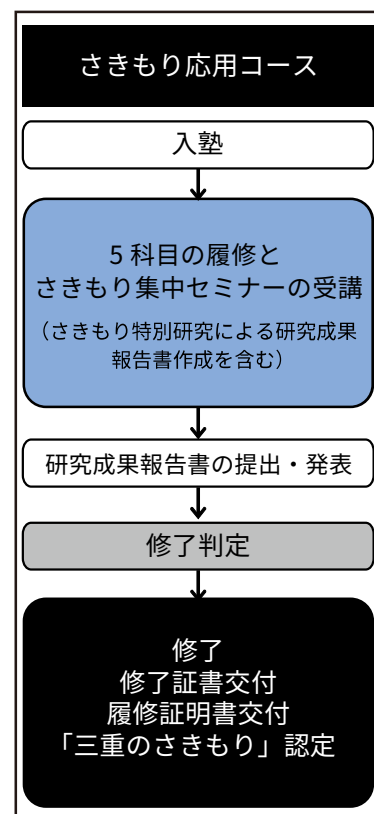


図2 入塾から修了までの流れ

## 2. 受講に係る留意事項

### 2.1 テキスト代等その他の費用

受講生が授業で使用するテキストの代金及び授業に係るその他の費用は、受講生の負担となります。

### 2.2 受講及び休講

講義は大学に登校して対面で実施することを基本としますが、オンラインで実施する場合もあります。また、授業担当教員のやむをえない事情等により、開講日、時限、教室を変更したり、講義を取り止めたりする（休講）場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

※5月28日から防災気象情報が新しくなったため、現在この内容については見直しを予定しています。  
当面は「休講」については緊急連絡先（メール）に連絡させていただきます。

#### 暴風警報・大雨警報時等の措置

三重県北部又は中部区域のいずれかの市町※1に、特別警報※2、暴風警報、暴風雪警報、伊勢湾に大津波警報、津波警報のいずれかが発表された場合の授業（成果報告会含む）（以下授業等と表記）は休講とします。ただし、これらの警報が解除された場合は次のとおり取り扱うものとします。

- (1) 発表された特別警報、暴風警報、暴風雪警報、大津波警報、津波警報のいずれかが午前6時まで解除されない場合は、午前の授業等を休講とします。
- (2) 発表された特別警報、暴風警報、暴風雪警報、大津波警報、津波警報のいずれかが午前10時まで解除されない場合は、午後の授業等を休講とします。

次の場合、休講とします。

- (1) 津市に大雨警報が発表され、本学周辺に洪水が発生又はそのおそれがある場合
- (2) 三重県北部又は中部区域のいずれかの市町に大雨警報が発表され、交通機関への影響により通学が困難である場合又はそのおそれがある場合
- (3) 三重県北部又は中部区域のいずれかの市町に大雪警報が発表され、交通機関への影響により通学が困難である場合又はそのおそれがある場合
- (4) 講義日当日、県内に震度5弱以上の地震が観測されている場合
- (5) 南海トラフ地震臨時情報が発表され「南海トラフ地震準備態勢」が継続している場合
- (6) 上記以外の場合において、授業等を実施することが困難であると予想される場合

交通スト又は悪天候等により通学困難な場合の取り扱いについて

- (1) 各講義担当教員は、交通スト又は悪天候等により通学困難な受講生が授業等を欠席した場合において、受講生の申し出に基づき、その受講生が通学不能であったと判断した時は、本人の不利益にならないよう配慮するものとします。

※1 「いずれかの市町」とは下記に示す市町

三重県北部区域：桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、  
木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町  
三重県中部区域：津市、松阪市、多気町、明和町

※2 「特別警報」とは下記に示すもの

大雨・暴風・高潮・波浪・暴風雪・大雪・高潮の各特別警報

## 2.3 補講の方法

やむを得ない事情（急な公務や出張、病気等）で、欠席した授業について、補講を受けることにより、授業への出席と認める場合があります。

補講の方法について、詳しくはセンターにお問い合わせください。

## 2.4 呼び出し等

授業中その他、受講生への連絡や呼び出しには応じられません。

## 2.5 授業時等の注意

- (1) 授業の途中での教室への入退室は、授業の妨げになりますのでご遠慮ください。
- (2) 授業中は携帯電話は、マナーモードにしてください。
- (3) 受講にあたり、本学が行う教育及び研究に支障をきたさないよう努めていただくとともに、授業担当教員及び事務局職員の指示に従ってください。

## 2.6 受講の停止

受講生は、授業時の注意に違反し、又はふさわしくない言動等を行い、本学の秩序を乱した場合は、その者の受講を停止させることもあります。

なお、受講停止の場合であっても、既納の授業料は返還できません。

## 2.7 損害賠償

受講生は、故意又は重大な過失により本学の施設、設備等を滅失、損傷又は毀損した時は、速やかにセンターに届け出るとともに、これを原状に回復し、又はその損害を賠償することが求められます。

## 2.8 附属施設の利用

受講生は、大学の附属図書館や食堂等が利用できます。

## 2.9 通学方法

本学では、受講生の自動車通学は原則として禁止していますので、公共交通機関を利用してください（17ページをご参照ください）。

## 2.10 休日等の校舎への立ち入り

開講日以外の土曜日、日曜日、祝日、夏季一斉休業日、臨時休業日、年末年始等は、校舎に立ち入ることはできません。

## 2.11 その他

- (1) 既納の検定料、入学料および授業料はいかなる事情があっても返還できません。
- (2) 通学定期や学割の使用はできません。



### 3. 教育課程表

#### 3.1 さきもり応用コース科目

表1 さきもり応用コース

授 業 科 目 名	担 当 教 員
防災実践基礎特論	川口淳(三重大学)、葛葉泰久(三重大学)、都築充雄(名古屋大学)、立花義裕(三重大学)、磯和勅子(三重大学)、宗片恵美子(特定非営利活動法人イコールネット仙台)、中井茉里(伊勢赤十字病院)、三重県防災対策部職員、水谷法美(名古屋大学)中村保親(津市南が丘地区自主防災協議会)
防災実践基礎演習	日本放送協会職員、山本康史(特定非営利活動法人みえ防災市民会議)、都築充雄(名古屋大学)、津市消防本部職員、津地方気象台職員、三重県防災対策部職員、石井美恵子(国際医療福祉大学大学院)、岸和田昌之(三重大学附属病院)、市町職員、水木千春(三重大学)、岸江竜彦(三重県)、藤原宏之(伊勢市)、印南京子(管理栄養士)、長谷川聡子(株式会社 Will Staff)、西村尚美(防災士)
防災実践応用特論	栗原行人(三重大学)、田所敬一(名古屋大学)、川口淳(三重大学)、磯和勅子(三重大学)、鈴木圭(三重大学)、三宅諭(三重大学)、室崎千重(奈良女子大学)、萩原拓也(名城大学)
防災実践応用演習	葛葉泰久(三重大学)、沼本晋也(三重大学)、佐藤公亮(三重大学)、三田紀行(三重大学)、平松万由子(三重大学)、北川亜希子(三重大学)、川口淳(三重大学)、澤健二(旭合同法律事務所)、国土交通省中部地方整備局職員、石倉健(三重大学)、新貝達(三重大学)、三宅諭(三重大学)、萩原拓也(名城大学)
さきもり集中セミナー	三重大学 防災・危機管理室職員、三重県警察本部職員、津市消防本部職員、自衛隊三重地方協力本部職員、三重県・三重大学 みえ防災・減災センター 企業防災アドバイザー
さきもり特別研究	各指導教員

\*所属は作成当時のものとする。



## 4. 教授要目

---

防災実践基礎特論

防災実践基礎演習

防災実践応用特論

防災実践応用演習

さきもり集中セミナー

さきもり特別研究

# 防災実践基礎特論

学期：通年 対象：さきもり応用コース 授業種別：講義

**キーワード・テーマ：**レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項（災害をもたらす自然現象、三重県の防災・減災、ファシリテーション、避難所の運営）

**授業の目的・概要：**レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項（災害をもたらす自然現象、三重県の防災・減災、ファシリテーション、避難所の運営）について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。

**学生の到達目標：**レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。

**受講要件：**特になし。

**教科書・参考書：**指定しない。講義中にプリントを配布する。

**成績評価方法と基準：**講義全9回の中 7回以上(70%以上)の出席者を成績評価の対象とする。期末レポート(100点)の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

**オフィスアワー：**問い合わせはEメールにて  
・みえ防災・減災センター (bosai\_juku@dimio.mie-u.ac.jp)

## 授業計画・学習の内容と課題

### 授業の時間割

10:30 ~ 12:00	・特論 85分・質疑応答 5分
12:00 ~ 13:00	・昼休憩
13:00 ~ 14:30	・特論 85分・質疑応答 5分
14:30 ~ 14:45	・休憩
14:45 ~ 16:15	・特論 85分・質疑応答 5分
16:15 ~	・事務連絡

### 対比表

応用コース 防災実践基礎特論	基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座
特論 1	講座 1
特論 2	講座 4
特論 3	講座 6
特論 4	講座 7
特論 5	講座 8
特論 6	講座 9
特論 7	講座 10
特論 8	講座 14
特論 9	講座 19

### 学習内容

#### 第1回

特論 1 みえの防災文化づくり

川口 淳 (三重大学大学院工学研究科)

#### 第2回

特論 2 災害をもたらす自然現象(地震・津波・風水害) 葛葉泰久 (三重大学大学院工学研究科/三重大学名誉教授)

特論 3 気候災害 立花義裕 (三重大学大学院生物資源学研究科)

#### 第3回

特論 4 災害時要配慮者対策 磯和勅子 (三重大学大学院医学系研究科)

特論 5 防災・災害復興における女性の視点 宗片恵美子 (特定非営利活動法人イコールネット仙台)

特論 6 災害時のこころのケア 中井茉莉 (伊勢赤十字病院/日本赤十字看護大学附属災害救護研究所)

#### 第4回

特論 7 三重県の防災・減災対策 三重県防災対策部職員

#### 第5回

特論 8 ハザードのメカニズム 津波 水谷法美 (愛知県顧問/名古屋大学名誉教授)

#### 第6回

特論 9 自主防災組織等の先進事例 中村保親 (津市南が丘地区自主防災協議会)

### 学習課題 予習・復習

各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

# 防災実践基礎演習

学期：通年 対象：さきもり応用コース 授業種別：演習

**キーワード・テーマ：**レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項（気象災害、防災情報の活用、初期対応、被災者支援、防災教育とリスクコミュニケーション、災害時の食事と心のケア、災害に備える地域力）

**授業の目的・概要：**レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項（気象災害、防災情報の活用、初期対応、被災者支援、防災教育とリスクコミュニケーション、災害時の食事と心のケア、災害に備える地域力）について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。講義内容を踏まえて、受講生、講師の間で議論し取り上げたテーマに関する理解を深める。

**学生の到達目標：**レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。講義内容を踏まえて、受講生、講師の間で議論し、取り上げ

たテーマに関する理解を深める。

**受講要件：**特になし。

**教科書・参考書：**指定しない。講義中にプリントを配布する。

**成績評価方法と基準：**講義全20回の中 14回以上（70%以上）の出席者を成績評価の対象とする。期末レポート(100点)の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

なお、「普通救命講習」、「図上訓練」（「避難所運営ゲーム(HUG)」、「被災者支援」、「初動対応」の3講座のうちいずれか1講座）については受講を必須とする。但し、「普通救命講習」については、別途消防本部等で普通救命講習以上を受講し、所有する修了証により有効期間内にあると認められる者はこの限りではない。

**オフィスアワー：**問い合わせはEメールにて

・みえ防災・減災センター (bosai\_juku@dimio.mie-u.ac.jp)

## 授業計画・学習の内容と課題

### 授業の時間割

10:30 ~ 12:00	・演習 85 分・質疑応答 5 分
12:00 ~ 13:00	・昼休憩
13:00 ~ 14:30	・演習 85 分・質疑応答 5 分
14:30 ~ 14:45	・休憩
14:45 ~ 16:15	・演習 85 分・質疑応答 5 分
16:15 ~	・事務連絡

### 対比表

応用コース 防災実践基礎演習	基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座
演習 1	講座 2
演習 2	講座 3
演習 3	講座 5
演習 4、5	講座 11 普通救命講習
演習 6	講座 12
演習 7、8	講座 13
演習 9	講座 15
演習 10	講座 16
演習 11	講座 17
演習 12、13	講座 18 被災者支援
演習 14、15	講座 20 初動対応
演習 16	講座 21
演習 17、18	講座 22 避難所運営ゲーム
演習 19	講座 23
演習 20	講座 24

### 学習内容

#### 第1回

- 演習 1 災害報道・マスコミ
- 演習 2 ボランティア

#### 第2回

- 演習 3 三重の歴史災害

#### 第3回

- 演習 4、5 普通救命講習

#### 第4回

- 演習 6 防災情報の活用
- 演習 7、8 Myまっぷラン・タウンウォッチング・避難対応

#### 第5回

- 演習 9 避難所の環境と健康
- 演習 10 災害医療と応急対応

#### 第6回

- 演習 11 市町行政の取り組み
- 演習 12、13 被災者支援・図上訓練

#### 第7回

- 演習 14、15 初動対応・図上訓練

#### 第8回

- 演習 16 災害時の食事
- 演習 17、18 避難所運営ゲーム (HUG)

#### 第9回

- 演習 19 ファシリテーション能力の向上
- 演習 20 防災士に期待される活動

#### NHK職員

山本康史（特定非営利活動法人みえ防災市民会議）

都築充雄（名古屋大学減災連携研究センター）

津市消防本部

気象庁津地方気象台職員

三重県職員

石井美恵子（国際医療福祉大学大学院）

岸和田昌之（三重大学医学部附属病院）

市町職員

水木千春（三重大学大学院地域イノベーション学研究所）

岸江竜彦（三重県）、藤原宏之（伊勢市）

印南京子（管理栄養士）

水木千春（三重大学地域イノベーション学研究所）

長谷川聡子（株式会社 Will Staff）

西村尚美（防災士）

### 学習課題 予習・復習

各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

# 防災実践応用特論

学期：通年 対象：さきもり応用コース 授業種別：講義

**キーワード・テーマ：**レジリエンスの視点を踏まえた地域における自然災害の特徴（ハザードのメカニズム）と防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者）

**授業の目的・概要：**レジリエンスの視点を踏まえた地域における自然災害の特徴（ハザードのメカニズムを理解し、防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者）について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例を解説する。必要な専門基礎知識や特徴的な実例を解説できることを目的とする。

**学生の到達目標：**レジリエンスの視点を踏まえた地域における自然災害の特徴を理解し、防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例を解説できる。

**受講要件：**特になし。

**教科書・参考書：**指定しない。講義中にプリントを配布する。

**成績評価方法と基準：**講義全9回の中7回以上（70%以上）の出席者を成績評価の対象とする。レポート（100点）の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

**オフィスアワー：**問い合わせはEメールにて

・みえ防災・減災センター（bosai\_juku@dimio.mie-u.ac.jp）

## 授業計画・学習の内容と課題

### 授業の時間割

第1回、第4回	第2回、第3回、第5回
13:00～14:30 ・特論 85分・質疑応答 5分	13:00～14:30 ・特論 85分・質疑応答 5分
14:30～14:45 ・休憩	14:30～14:45 ・休憩
14:45～16:15 ・特論 85分・質疑応答 5分	
16:15～16:30 ・休憩	
16:30～18:00 ・特論 85分・質疑応答 5分	
18:00～ ・事務連絡	

### 学習内容

#### 第1回

特論1	三重県の地震と津波の記録	栗原行人（三重大学教育学部）
特論2	ハザードのメカニズム 地震	田所敬一（名古屋大学）
特論3	津波から命を守るために	川口 淳（三重大学大学院工学研究科）
第2回		
特論4	現場で使える実践手法（要配慮者）	磯和勅子（三重大学大学院医学系研究科）
第3回		
特論5	災害医療体制の計画	鈴木 圭（三重大学大学院医学系研究科）
第4回		
特論6、7、8	災害復興の計画・課題	三宅 諭（三重大学大学院工学研究科）、室崎千重（奈良女子大学）
第5回		
特論9	防災まちづくりの計画	三宅 諭（三重大学大学院工学研究科）、萩原拓也（名城大学）

### 学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

# 防災実践応用演習

学期：通年 対象：さきもり応用コース 授業種別：演習

**キーワード・テーマ：**レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者）

**授業の目的・概要：**レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者）について、演習課題を通じて計画策定の基本的な考え方や策定手法、実践手法の基礎を習得する。基礎への理解を深め、修得することを目的とする。

**学生の到達目標：**レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、演習課題を通じて計画策定の基本的な考え方や策定手法、実践手法の基礎の基礎への理解を深め、説明できる。

**受講要件：**特になし。

**教科書・参考書：**指定しない。講義中にプリントを配布する。

**成績評価方法と基準：**講義全18回の中13回以上（70%以上）の出席者を成績評価の対象とする。レポート（100点）の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

**オフィスアワー：**問い合わせはEメールにて

・みえ防災・減災センター（bosai\_juku@dimio.mie-u.ac.jp）

## 授業計画・学習の内容と課題

### 授業の時間割

第1回、第2回	第3回、第6回、第7回	第5回
13:00 ～ 14:30 ・演習 85分 ・質疑応答 5分	14:45 ～ 16:15 ・演習 85分 ・質疑応答 5分	13:00 ～ 14:30 ・演習 85分 ・質疑応答 5分
14:30 ～ 14:45 ・休憩	16:15 ～ 16:30 ・休憩	14:30 ～ 14:45 ・休憩
14:45 ～ 16:15 ・演習 85分 ・質疑応答 5分	16:30 ～ 18:00 ・演習 85分 ・質疑応答 5分	14:45 ～ 15:30 ・演習 40分 ・質疑応答 5分
16:15 ～ 16:30 ・休憩	18:00 ～ ・事務連絡	15:30 ～ 16:15 ・演習 40分 ・質疑応答 5分
16:30 ～ 18:00 ・演習 85分 ・質疑応答 5分		16:15 ～ ・事務連絡
18:00 ～ ・事務連絡		
	第4回	
	10:30 ～ 12:00 ・演習 85分 ・質疑応答 5分	
	12:00 ～ 13:00 ・休憩	
	13:00 ～ 14:30 ・演習 85分 ・質疑応答 5分	
	14:30 ～ 14:45 ・休憩	
	14:45 ～ 16:15 ・演習 85分 ・質疑応答 5分	
	16:15 ～ 16:30 ・休憩	
	16:30 ～ 18:00 ・演習 85分 ・質疑応答 5分	
	18:00 ～ ・事務連絡	

### 学習内容

#### 第1回

演習 1、2、3 風水害対策の計画 葛葉泰久（三重大学大学院工学研究科）  
沼本晋也（三重大学大学院生物資源学研究科）

#### 第2回

演習 4、5、6 地震対策の計画（建築物の災害対策） 佐藤公亮、三田紀行（三重大学大学院工学研究科）

#### 第3回

演習 7、8 現場で使える実践手法（要配慮者・グループディスカッション）  
平松万由子、北川亜希子（三重大学大学院医学系研究科）

#### 第4回

演習 9、10、11、12 現場で使える実践手法（タウンウォッチング・災害図上訓練）  
川口 淳（三重大学大学院工学研究科）

#### 第5回

演習 13 防災関連制度の変遷 澤 健二（旭合同法律事務所）  
演習 14 東海地方の復興対策の展望 国土交通省中部地方整備局職員

#### 第6回

演習 15、16 災害医療体制の計画 石倉 健、新貝 達（三重大学大学院医学系研究科）

#### 第7回

演習 17、18 防災まちづくりの計画（ワークショップ） 三宅 諭（三重大学大学院工学研究科）  
萩原拓也（名城大学）

### 学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

# さきもり集中セミナー

学期：通年 対象：さきもり応用コース 授業種別：講義・演習

**キーワード・テーマ：**レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための地域または企業等における各種計画の策定および地域の現場での実践手法（地域での対応行動、コミュニケーションの基本と実践、ファシリテーションの基本と実践）

**授業の目的・概要：**レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための地域または企業等における各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例のうち、3つのテーマについて集中して解説する。

**学生の到達目標：**レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための地域または企業等における各種計画の策定および地域の現場での実践手法への理解を深め、説明できる。

**受講要件：**特になし。

**教科書・参考書：**指定しない。講義中にプリントを配布する。  
**成績評価方法と基準：**講義全6回の中5回以上(70%以上)の出席者を成績評価の対象とする。レポート(100点)の結果に基づき、60点以上の者を合格とする。

**オフィスアワー：**問い合わせはEメールにて  
・みえ防災・減災センター (bosai\_juku@dimo.mie-u.ac.jp)

## 授業計画・学習の内容と課題

### 授業の時間割

第1回	第2回
13:00 ~ 14:30 ・演習 85分・質疑応答 5分	13:00 ~ 14:30 ・演習 85分・質疑応答 5分
14:30 ~ 14:45 ・休憩	14:30 ~ 14:40 ・休憩
14:45 ~ 16:15 ・演習 85分・質疑応答 5分	14:40 ~ 15:40 ・演習 55分・質疑応答 5分
16:15 ~ 16:30 ・休憩	15:40 ~ 15:50 ・休憩
16:30 ~ 18:00 ・演習 85分・質疑応答 5分	15:50 ~ 16:50 ・演習 55分・質疑応答 5分
18:00 ~ ・事務連絡	16:50 ~ 17:00 ・休憩
	17:00 ~ 18:00 ・演習 55分・質疑応答 5分
	18:00 ~ ・事務連絡

### 学習内容

#### 第1回

演習 1 企業の対応行動の計画

演習 2、3 企業の対応行動の計画（ワークショップ） 三重県・三重大学 みえ防災・減災センター企業防災アドバイザー

#### 第2回

演習 4 地域との連携（訓練） 三重大学・防災・危機管理室職員

演習 5、6 行政機関による災害対応活動 三重県警察本部職員、津市消防本部職員、自衛隊三重地方協力本部職員

### 学習課題 予習・復習

各教員が講義中にレポートを出題する。各講義中に配布したプリントを再読し、解説したポイントを確認する。

## さきもり特別研究

学期：通年 対象：さきもり応用コース 授業種別：講義・演習・実習

**キーワード・テーマ：**特別研究

**授業の目的・概要：**地域または企業等における防災計画あるいは実践に関する研究テーマを受講生自ら設定し、指導教員の指導のもとで、調査研究の方法、研究成果報告書の編集方法や発表方法を学習しながら研究成果報告書の作成に取り組み、防災・減災分野の課題発見と課題解決のための基礎的能力を修得する。レジリエンスの視点からみた防災・減災分野の課題発見と課題解決のための基礎的能力を修得することを目的とする。

**学生の到達目標：**特別研究を通して、設定した研究目標を達成するために必要な論理的思考、研究成果報告書の編集や発表・討論する能力や技術を習得する。

受講要件：特になし。

**教科書・参考書：**指定しない。講義中にプリントを配布する。

**成績評価方法と基準：**研究に対する取り組み姿勢、制作過程、研究成果報告会における発表と討論、研究成果報告書を100点満点で評価し、60点以上の者を合格とする。

**オフィスアワー：**問い合わせはEメールにて各講義を担当する三重大学教員まで。

- ・川口 淳 (jkawa@arch.mie-u.ac.jp)
- ・水木千春 (mizkichi@innov.mie-u.ac.jp)
- ・沼本晋也 (numamoto@bio.mie-u.ac.jp)
- ・三宅 諭 (smiyake@arch.mie-u.ac.jp)
- ・佐藤公亮 (sato@arch.mie-u.ac.jp)
- ・みえ防災・減災センター (bosai\_juku@dimio.mie-u.ac.jp)

### 授業計画・学習の内容と課題

#### 授業の時間割

通常 (120分) 10:00 ~ 12:00

中間報告会 (120分 休憩含む)

研究成果報告会 (120分程度 休憩含む)

研究成果公開シンポジウム (160分程度 休憩含む)

#### 学習内容

- 第1回 研究指導ゼミ (研究テーマの整理とグループ分け)
- 第2回 研究指導ゼミ (研究テーマとグループの決定)、研究成果公開シンポジウム
- 第3回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- 第4回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- 第5回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- 第6回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- 第7回 中間報告会
- 第8回 中間報告会
- 第9回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- 第10回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- 第11回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- 第12回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- 第13回 研究指導ゼミ (グループ別指導)
- 第14回 研究成果報告会
- 第15回 研究成果報告会

#### 学習課題 予習・復習

- <予習> 論文作成過程の各段階において前段階の内容を確認し、次の段階に必要な作業を予測して準備する。  
設定した研究テーマに応じて、研究対象地域における現地調査、文献調査、関係者へのヒアリング調査などを実施する。
- <復習> 論文作成課程の各段階終了後に、内容を確認する。

# みえ防災塾の津波警報等発表時の避難方法について（令和3年6月10日改訂）

## 1. 津波警報の種類と避難方法について

「みえ防災塾」開講時に津波警報等が発表された場合の避難方法および避難先を定める。

表1 みえ防災塾の津波警報等発表時の避難行動基準

津波警報・注意報 の分類	予想される 津波の高さ 発表基準	表現	津市災害対策本部の 避難勧告・指示等	みえ防災塾の避難行動	
				平日	垂直避難 学内1次避難
大津波警報	10m 超 10m 5m	巨大	避難指示	休日等	学外避難
津波警報	3m	高い	避難指示	平日	垂直避難 学内1次避難
				休日等	学外避難
津波注意報	1m	表記しない	無し	学内待機	
警報なし (強い揺れ： 震度5強以上)			無し	学内待機	
警報なし (長時間ゆっくり した揺れ)			無し	学内待機	

## 2. 避難実施要領

### (1) 避難指示などの発表

気象庁から津波警報（津波警報、大津波警報）が発表された場合の避難行動は、津波警報・注意報の分類に応じ表1に示すものとする。学外の避難場所又は、学内の最寄校舎棟（5階以上）に避難を実施する。

### (2) 津波避難先及びルート

- ①津波警報および大津波警報発表時の学外避難先は、三重県総合文化センターとする。  
避難ルートは図1を基本とするが、避難ルートの被害状況に応じ臨機応変に対応する。
- ②負傷者により学外避難が困難な場合、新江戸橋橋梁が損壊し橋梁通過が困難な場合、市街地が通行障害等により学外避難ができない場合は学内の所在棟の5階以上に避難を行う。
- ③学内避難の避難先は所在棟の5階以上とするが、所在等に5階以上がない場合の避難先は次の通りとする。また避難先を右ページの三重大学構内図に示す。
  - ・工学部第一合同棟5階
  - ・地域イノベーション研究開発拠点D棟5階

### ●情報収集源

津市の防災行政無線及び警鐘信号・サイレン信号、三重大学緊急放送システムの放送、電話、テレビ・ラジオ、必要に応じ目視等により情報収集を行う。

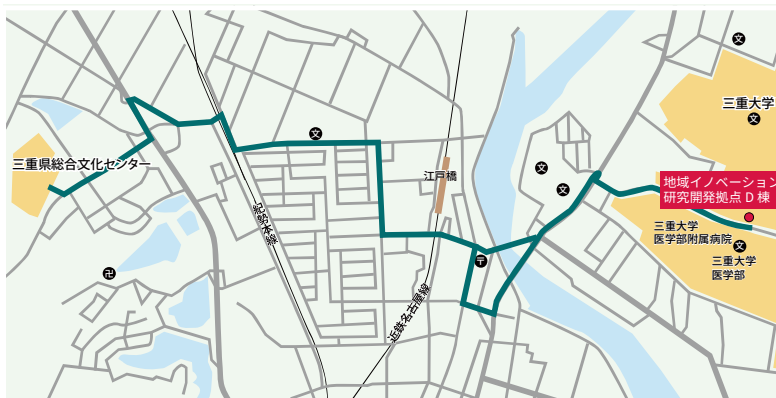


図1 学外津波避難経路の例

# 三重大学構内図

● 学内津波避難場所

- ・地域イノベーション研究開発拠点 D 棟 5 階
- ・工学部第一合同棟 5 階

三重県・三重大学  
みえ防災・減災センター

総合研究棟II A棟 3階



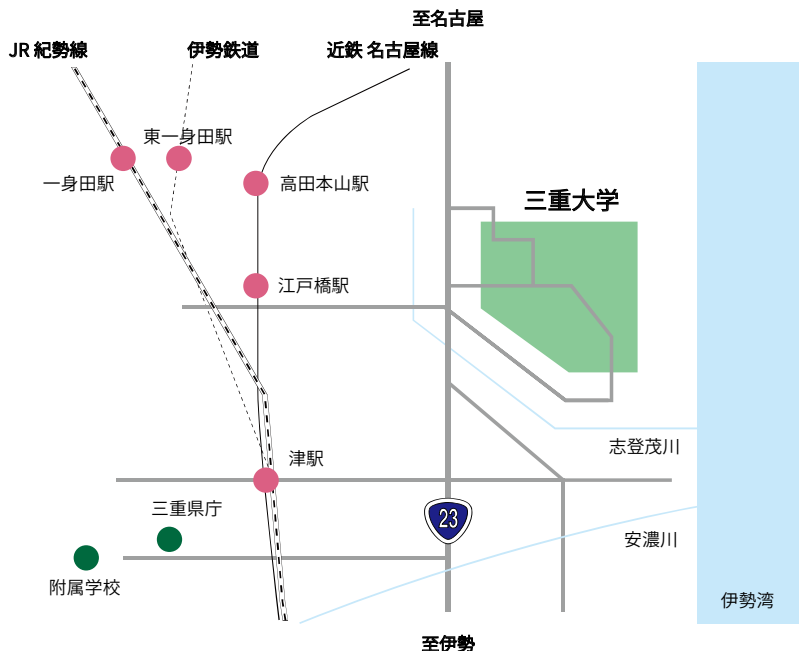
地域イノベーションホール

地域イノベーション研究開発拠点 C棟 3階

21番講義室

工学部 4号館 2階

## アクセス



◆江戸橋駅から 徒歩約 15 分

◆津駅から

津駅東口三重交通バスのりば「4 番」から  
→「大学病院前」下車 徒歩約 10 分

●乗車バス行先

- 「白塚駅」(06 系統)
- 「三重病院」(51 系統)
- 「椋本 (むくもと)」(52 系統)
- 「豊が丘」(52 系統)
- 「サイエンスシティ」(52 系統)
- 「東豊野」(53 系統)
- 「高田高校前」(56 系統)



三重県・三重大学  
みえ防災・減災センター

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577  
三重大学総合研究棟Ⅱ  
A棟3階336号室

TEL : 059-231-9952 FAX : 059-231-9954

Mail : bosai\_juku@dimo.mie-u.ac.jp

HP : <https://www.midimic.jp/>

